



情報掲示板

Large empty rectangular box for information or notices.

いぶきファミリー (いぶき福祉会会員) のご案内

年会費 個人:1口 3,000円 団体:1口 12,000円

ご入金 ①クレジットカード 只今、切替えのため準備中です。

②郵便振替:00840=3=91146 加入者名/いぶきファミリー

③直接窓口:いぶき福祉会・ねこの約束(JR岐阜駅)

お問合せ いぶきファミリー事務局 TEL 058-233-7445 FAX 058-232-9140 E-mail: ibuki.m@ibuki-komado.com (タイトルにいぶき福祉会会員と記入)



編集後記 林守男

この数年旧街道を歩いている。最初はガイドブックの街道案内をたどり歩いていたが、最近初めての街道歩きも分岐路に差し掛かったときに、ほぼ道を正しく選べるようになってきた。当時は歩く以外に移動方法がなかったから、いかに楽に早く進めるルートをとるかが、道を拓くにあたって優先されたのは間違いがない。トンネルを掘り橋を架ける技術も富もない中、優先順位があった。平地の一本道(暇のついでに地名)川沿いの河岸段丘が一番歩きやすく、次に丘陵地、意外に尾根道・峠道なども好まれた。一番嫌われたのは低湿地帯・ぬかるみである。伊勢湾の低地は「七里の渡し」で渡り、琵琶湖岸沿いには道がなかった。京都大阪間はいまでも淀川の南を大きく迂回している。先日若狭から京都への移動に琵琶湖西岸を通らず、「鯖街道」を車で抜けた、いくつもの旧宿場町と旧集落のたたずまいを愛でながらのドライブであった。

いぶき日和

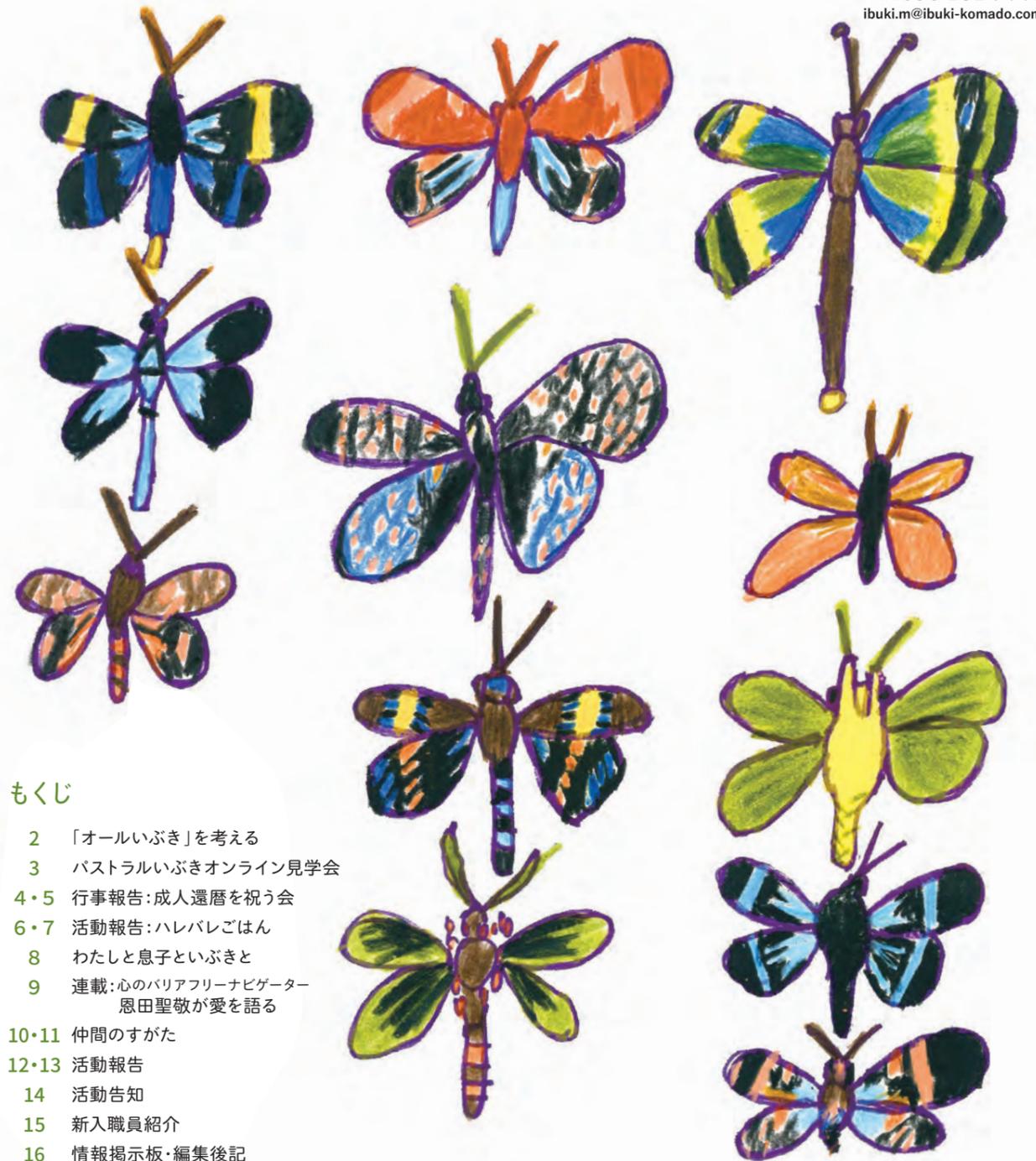
題:給食 その6 作・絵:なみた



夢よもっとひろがれ

4 2021 月号 Spring vol.206 発行・編集 いぶきファミリー (旧いぶき福祉会後援会)

F502-0907 岐阜市島新町5番9号 TEL.058-233-7445 FAX.058-232-9140 ibuki.m@ibuki-komado.com



もくじ

- 2 「オールいぶき」を考える
3 バストラルいぶきオンライン見学会
4・5 行事報告:成人還暦を祝う会
6・7 活動報告:ハレバレごはん
8 わたしと息子といぶきと
9 連載:心のバリアフリーナビゲーター 恩田聖敬が愛を語る
10・11 仲間のすがた
12・13 活動報告
14 活動告知
15 新入職員紹介
16 情報掲示板・編集後記

Shingo kato



「オールいぶき」を考える

いぶき福祉会本部・いぶきファミリー事務局 北川 雄史

どんな障害のある方も生き生きと暮らせる地域社会の実現を目指し、障害のある方自身とその家族、職員、地域の人々が力を合わせて活動するという理念のもと、社会福祉法人いぶき福祉会といぶきファミリー（いぶき福祉会後援会）は車の両輪として歩んできました。法人設立28年目を迎えた今年、三年に一度のサービス給付単価改定の影響と新型コロナ感染対策を見据えながら、「オールいぶき」として誠実に活動していきたいと思っています。

いま、「オールいぶき」に直結するテーマがふたつあります。ひとつは、2020年12月に新たに「いぶき福祉会会員」を設立したことです。原則どなたでも会員になって会費で直接法人の活動を支援できます。2011年度の税制改正で、個人が「一定の要件」を満たした社会福祉法人に寄付金を支出した場合、当該寄付金について税額控除制度の適用を受けることができるようになりました。その要件のひとつとして「法人に3000円以上の寄付金を支出した者（判定基準寄付者数）が年間100人以上×5年間」という実績が求められるのですが、実はいぶき福祉会はまだこの要件を満たしておらず、税額控除対象法人になっていません。そのためこれまでご寄付くださった皆様に税制優遇を受けていただくことができませんでした。申請から3年目にあたり、なんとかこのまま5年間の実績を重ね、ご支援くださる皆様のご負担を軽くしたいと思っています。いぶき福祉会会員は判定基準寄付者と認められるため、実績にも反映できます。かつては社会福祉法人は理由なく寄付を募ることができませんでした。いぶきファミリーが長く担ってきた「会費や寄付でいぶきの構

想を財政的に応援する」という大きな役割を、法人が主体的に担っていくことを考える時期が来ています。

もうひとつのテーマは、2014年の社会福祉法人改革の一環で掲げられた「社会福祉法人の公益的な取組み」です。求められることは、すでにいぶきファミリーがこれまで丁寧に取り組んできた地域づくり・仲間づくりの活動そのものであるため、それらをどのように整理するかを、いぶき福祉会理事会とファミリー役員会で2年間にわたり議論を重ねてきました。

そういったことを踏まえて、オールいぶきのあり方を考えるいぶきファミリー総代会を開催することにいたします。

今年度はすでに、「いぶき寄り添いひろがるプロジェクト」（意思決定支援、「親心の記録」作成、「親ある間の親亡き後準備講座」、先進施設視察計画）、パストラル防災拠点を生かした防災・減災学習、「かりんとう応援プロジェクト」を発展させたクラウドファンディング第2弾、「いぶきふれあいまつり」に代わる「ぎふ、ハッピーワーク」、「いぶきコミュニティ・ガーデン」、「ハレバレごはん」、ふるさと納税を財源とする「ぎふ、ハッピーハッピープロジェクト」など、いぶきらしい地域との協働が動き始めています。会報、ホームページ、年次報告書「夢よもっとひろがれ」も、いぶきをこえたコミュニティをつないでいます。

総代会にむけ、これらを法人の公益的な取組みにまとめなおす計画を進めています。30年後におけたオールいぶきを描く対話の様子を、次号で詳細にお伝えいたします。

パストラルいぶき オンライン見学会開催

西部事業部 森 洋三

昨年度みなさまのご支援で建設したグループホーム「パストラルいぶき新棟」の見学会を3月13日（土）と16日（火）にオンライン（zoom）にて開催しました。

仲間の生活は始まりましたが、新型コロナの影響で予定していた竣工式を中止とし、市中感染



パストラルでの仲間の生活をお伝えしました

も収束しない状況の中で、改めてお礼やお披露目もできなかったのが、開所から1年の区切りでオンラインにて現在の様子をお届けしました。パストラル新棟より中継し、両日合わせて20人ほど、学生から入居者家族、設立のご寄付をいただいた方まで幅広い方々に参加いただきました。

リーダーの藤井よりこの1年の仲間の生活や変化を私たちの願い、親御さんの願いも交えて発表しました。

土曜日の見学会では入居している山元さんが自



お部屋を紹介してくれた山元さん

分の部屋を紹介してくれました。張り切って朝から何度も部屋を模様替えしていましたが、いざとなると少し恥ずかしそうでしたが、お気に入りの場所はベッドであることや飾っているぬいぐるみを紹介してくれました。

見学案内や発表のあとは、交流会を行いました。普段の過ごし方などの質問や見学の感想を皆さんとやり取りしました。

入居者家族の方からは、ホームに入居できたことへの安堵と感謝の言葉とともに、仲間家族誰もが安心してホームを利用できるようになってほしいという願いが出されました。



交流会では仲間とともに家族の願いも共有しました

1年間で自分で生活を作っていく仲間たちのたくましい姿を感じながらも、将来の悩みも浮き出てきて、長きにわたって、この支援を続けていけないといけないと身が引き締まる思いでした。



岐阜、関東など様々な場所がつながり交流しました

西部事業部
成人・還暦を祝う会
新成人
小川明日香さん、安田百花さん、松原楓太さん
還暦
齋藤茂行さん

いぶきゆめひろ 谷口京子

西部で成人を迎えられたのは小川明日香さん、安田百花さん、松原楓太さんの3名、還暦を迎えられたのは、齋藤茂行さんです。

今回の成人・還暦を祝う会はコロナ禍での開催ということもあり、3密を避けそれぞれの建物からオンラインで参加しました。会場も当初のコミセンからいぶきの食堂に変更。成人還暦の皆様、来賓の方々、新成人と還暦者と同じ部屋の仲間のみが直接出席しました。司会は、先輩でもあるゆめくるんの小森さんと樋口さんに担当していただきました。司会の合図で、式が始まりました。落ち着いた色合いの振袖姿に身を包んだ小川さん、華やかな袴姿の安田さん、パッチリ決めたスーツ姿の松原さん。そして、赤いちゃんちゃんこ姿の似合う齋藤さんがフラワーアーチをくぐり拍手に迎えられ入場しました。

はじめに、小森さんからはじめの挨拶があり新成人と還暦者の紹介ムービーが流れました。これまでの生い立ちや、グループでの様子、一緒に働く仲間からのお祝いメッセージが映し出されました。ムービーには、色々な思いが詰まっており笑顔で見ている新成人や還暦者の方や思いが込み上げ涙されながらご覧になる方もいらっしゃいました。

次に、恩師の方からの祝辞では学生時代のエピソード

などをお話くださいました。保護者会長、施設長からの祝辞の後に、仲間代表として新成人にはzoomより原さんから、還暦者には神谷さんからお祝いのあいさつがありました。つづいて新成人にはムスカリの仲間から「おめでとう」の言葉とともに記念品が渡されました。時間をともにしてきたムスカリの仲間からの言葉に、3名ともとても嬉しそうな表情をしていました。今回は職員の森下さんも成人を迎えたので、サプライズでお祝いしました。

還暦を迎えた齋藤さんからは「60年間ありがとうございました。これからも、お仕事頑張ります。」という感謝と決意の言葉が述べられました。新成人の小川さん、安田さん、松原さんは、家族への手紙を書き花束とともに渡しました。手紙には、写真でそれぞれが子供の頃から今までを時間をかけて振り返った、家族への感謝の気持ちが込められました。その後、ご家族の方からも感謝のお言葉と、これまでの思いやこれからの願いが語られ、私たちの中にも深く響きました。おしまい、小森さんから終りの挨拶があり、締めくりは全員で記念撮影を行いました。



ムスカリとゆめひろメンバーと

例年とは違い会場に全員が会する式ではありませんでしたが、離れていてもお祝いできる新しい形の会になったと感じました。



小川明日香さん



安田百花さん



松原楓太さん



齋藤茂行さん

北部事業部
成人を祝う会
新成人
鷺見圭亮さん、小森麗さん、藤吉一晴さん、柴田尚花さん

いぶき 柏原知恵

北部では鷺見圭亮さん、小森麗さん、藤吉一晴さん、柴田尚花さんが新しく成人を迎えられました。1月8日、成人を祝う会当日は朝まで降り続いた雪で、一面、真っ白でした。そんな中、小森さんと柴田さんは、雪景色に映える鮮やかな振袖姿、鷺見さんと藤吉さんも黒のスーツにネクタイと格好よく決まっていた。

普段、にじの部屋でクラッカー作りをしている藤吉さん。担当の計量だけでなく、生地づくりや散歩も頑張っています。そんな藤吉さんは会場の雰囲気に少し緊張した面持ちで入場しました。式が始まると目の前にある大きなスクリーンに仲間たちの姿や懐かしい先生が映り始め、じっと見つめて話に聞き入っているようでした。藤吉さんが学生のころから大切にしてきた体づくりの散歩を今も第二いぶきで頑張っていることを知り、先生も喜んでくれていました。

鷺見さんは、しっかりと足取りで入場しました。スクリーンに恩師の先生が映し出され、「鷺見圭亮さん」と呼びかけられると、手を挙げ「はい」と笑顔で元気よく応えていました。きっと学生のころにもこんなやり取りがあったのだろうと嬉しくなりました。そんな鷺見さんは普段、はりこの仕事で紙ちぎりを頑張っています。この紙ちぎりは学生のころから鷺見さんがずっと頑張り続けてきた仕事なのだそうです。

小森さんはいつもと違う雰囲気に緊張してしまったようです。その緊張をほぐしてくれたのが仲間たちからの活動紹介や先生からのメッセージでした。小森さんの決め台詞の「大好き!大好き!」が仲間たちから紹介されると一緒になって大きな声で応えたり、小森さんが学生のころに好きだった曲を先生が流してくれると歌いだし、いつもの元気な笑顔を見せてくれました。そんな小森さんは新成人の誓いでも「大好き!大好き!」と、会場にいた人たちにもたくさんの笑顔をくれました。

柴田さんは恩師の先生が写真を使って高校生活を振り返ってくれました。たくさんの写真を紹介しながらとても楽しそうに話す先生、きっととても良いクラスで楽しく頑張った高校生活だったのだと感じました。柴田さんもそうした先生の話聞きながら、懐かしそうにほほえんでいました。先生も柴田さんがマカポンの仕事を頑張っている姿を見て成長を感じてくれていたようです。今年度の成人を祝う会は、会場をリモートでつないで



パストラル防災拠点にて、リモート参加のみなさんと

Live配信したり、先生のメッセージを事前に収録したりと例年とは異なる形での開催となりました。それでも、リモートだからこその体験もでき、新成人のみんなもとても嬉しそうにしてくれて良かったです。これからも一緒に第二いぶきでたくさんの経験を積み重ね、楽しく過ごしていきましょうね。



鷺見圭亮さん



小森麗さん



藤吉一晴さん



柴田尚花さん

自然栽培パーティの野菜で、全国にエールを送ろう！

ハレバレごはんプロジェクト 「今日は、お母さんと食べよう」

ごんのみまカンパニー 竹腰 龍太

私たちのチームは自然栽培のお米やお野菜を作っています。今回、ハレバレごはんプロジェクト「今日は、お母さんと食べよう」という企画に参加しましたので、ご紹介します。

ごんのみまカンパニーは農業を始めて6年目、ふたつのグループ、コスモスとパレットに分かれています。



雪の積もる中、大根収穫しました。

主に畑に出掛けるコスモスはマルチ張りから植え付け、草取り、収穫まで畑作業のスペシャリスト。

パレットは主に室内で野菜洗いや出荷作業などを行い、畑作業にも行きます。

自然栽培とは農薬や肥料を一切使わない栽培方法です。自然栽培での畑作業は慣行栽培(多くの農家が行っている一般的な栽培方法)と比べて草取りなどの作業が大変ですが、みんなで力を合わせて頑張っています。自然栽培パーティという全国で100ほどの福祉施設が加盟している農業と福祉をつなぐ全国規模の団体。自然栽培のお野菜やお米の魅力を伝えており、いぶきも加盟しています。そんな、自然栽培パーティ事務局から『ハレバレごはんプロジェクトに参加しませんか?』と声がかかりまし



た。この企画を通じて、より多くの方に自然栽培の魅力や伝え、新しい「つながり」をつくりたいと思い、参加を決めました。

このプロジェクトは「コロナ禍で頑張る日本全国の人たちに元気になってもらいたい」という思いで自然栽培パーティが主催し、ヤマト福祉財団に助成をいただき、はじまりました。企画には次の4つあります。

- ①北海道みのり彩園が地元の親子を招待してご飯をふるまった「畑の青空レストラン」
- ②学生が農作業を手伝い、お礼にまかない飯をふるまう「まかない飯レストラン」
- ③農福師(仲間)の応援動画とお野菜をお届けする「声の箱」
- ④全国の自然栽培パーティ施設のお米やお野菜を使ったお弁当を作り、医療従事者やシングルマザーに農福師が届ける「今日は、お母さんと食べよう」

この記事で紹介するのは4番目の企画です。コロナ禍で大変な思いをしている方々に全国で合計1000食お配りし、そのうちいぶきで担当したのは150食。ふれあい会館14階にあるレストラン「Kouzo Gifu」に50食×3回を作ってもらいました。お弁当にはいぶきのお米、大根、里芋、サツマイモ、黄金カブ、レモン、いよかん、粉茶、北海道の自然栽培パーティ仲間のとあさ村から仕入れた黒千石豆、札幌太人参を使用しました。



大根の出荷作業

メニューは、緑輝大根と里芋の水煮し(煮汁はドレッシングに)包み鯉、刺し昆布と塩で炊き上げ、味をつけ過ぎない素材の味を生かした一品。黄金かぶ、人参のマリネサラダ、黒千石豆ごはん(いぶき米)、サツマイモの粉茶揚げ、ワカサギのいぶきレモン、いよかんの南蛮酢など。どの料理も素材の味を引き出されたおいしいお弁当でした。ハレバレごはんのイラストの風呂敷に包み、お野菜紹介、メニュー紹介のパンフレットも同封しました。みんなの思いのこもったお弁当は、1回目の1月19日と、3回目の28日にNPO法人仕事工房ポロとつながりのある、ひとり親のご家庭にお配りしました。担当した篠原貴史さんと酒井玲奈さんは岐阜駅のねこの約束の前で、「お召し上がりください」と元よく手渡しをしました。中にはエコバッグを持参された方もいて「とても楽しみにしていました」と笑顔で受け取っていただきました。

また、後日いただいたアンケートには「野菜の説明書を見ながら、親子でこれは珍しい物だね!とか、ヘルシーなお弁当でいいねと言って食べました。」「普段カップラーメンが多いので、サラダや煮物をパクパク食べる子どもたちは新鮮でした」と喜びのお声を頂きました。

2回目の1月22日には岐阜赤十字病院にお届けしました。「医療現場で頑張る力になります」と言っていただきました。また、この日に岐阜新聞と中日新聞の取材を受け、お弁当包みの作業をする尾関寛之



いぶきの大根と里芋がメイン!

また、後日いただいたアンケートには「野菜の説明書を見ながら、親子でこれは珍しい物だね!とか、ヘルシーなお弁当でいいねと言って食べました。」「普段カップラーメンが多いので、サラダや煮物をパクパク食べる子どもたちは新鮮でした」と喜びのお声を頂きました。

2回目の1月22日には岐阜赤十字病院にお届けしました。「医療現場で頑張る力になります」と言っていただきました。また、この日に岐阜新聞と中日新聞の取材を受け、お弁当包みの作業をする尾関寛之

林院長(左2人目)と太田シェフ(右)と一緒に



林院長(左2人目)と太田シェフ(右)と一緒に



ねこの約束の前でお渡ししました

さんは「僕たちが育てたお野菜のお弁当です。おいしく食べてください。」と答えていました。その様子は1月24日に掲載されました。今回の企画についてKouzo Gifuの太田シェフと打合せを重ねていく中で、太田シェフが「自然栽培の魅力や農福師の姿が伝わるお弁当を作りたい」「いぶきの大根と里芋がメインのお弁当です」と話されていたことがとても嬉しかったです。

そして、これからもつながりを大切に、ともに歩いていけたらと願っています。近いうちにKouzo Gifuでいぶきを特集した「いぶきweek」を実施する予定です。その際は、ぜひお越しください。



岐阜新聞の記事

普段畑で頑張っている仲間の姿を150食のお弁当という形で発信することができました。これからも、仲間の姿や自然栽培の魅力を伝え、新しい「つながり」をつくれるような活動をしていきます。

ハレバレごはん
ホームページ



Kouzo Gifu
FBページ



シリーズ わたしと息子といぶきと

山口 淳二

私たち夫婦には直ぐ子宝に恵まれず、4年を過ぎた頃、妻より子供を授かったことを聞き、親になれる喜びと責任感で背筋が伸びる思いがしました。予定日より27日も早い3月24日の朝方、妻がお腹の具合に違和感があると言っていました、妻の大丈夫との言葉だけで不安な中、会社へ出掛けてしまいました。結果破水していた事に気付かず、痛みで動けず義母や親類の協力もあり救急車で指定クリニックに運ばれました。



3歳、犬山モンキーパーク観覧車のなかで

駿は泣かない仮死状態で、指定クリニックから県総合医療センター内の新生児センターへ運ばれて、懸命な処置をしていただきました。もうダメかもと言われながらも息子がひとり、新生児センター内で生きようと頑張っている姿を私も毎日退社した足で見守りに行きました。体重も徐々に増え退院しましたが、しばらくは鼻からミルクを入れ、吸引器で唾液やタンを吸い取る日々でした。

その後リハビリをしながら吸う力も出てきました。主治医からの紹介で、理学と言語のリハビリも始めました。措置通園も受けることになり、保育・集団・理学・言語・作業を5年半の間頑張りました。脳性麻痺による体幹機能障害(座位困難)から(起立位困難)へ障害名が変わり、微々ではありますが、わが息子なりの成長もみられました。

学校に上がる前に股関節の手術をして、7日ほど入院、ギプスのままでのリハビリもしました。

希望が丘から本巣特別支援学校へ移り、車椅子の使用から歩行目的でシルバーカーで通いました。別施設でも言語・理学・作業を頑張ったり、高等部への

試験、盲学校の目に関する教室に参加したり、沖縄の楽しい修学旅行など、いろんな体験ができて、良い思い出になったと思います。その当時は鉄仮面などと冷やかされる程の無表情でしたが、今はとてもよく笑うし、独り言ではありますがよくしゃべっています。言われている事が何となく分かっている様で、私たちにほほ笑みかけてくれたり、しかられると我慢もしています。(しばらくの間だけ)息子の障害や成長を通じて、多くの方と関わりをも



小1、希望が丘特別支援学校にて、ダイナミックに!

てて、その方々のおかげもあり、息子もここまで成長できたのだと思って感謝しています。親だけではどうなっていたらろうとつくづく感じます。卒業後の進路を決めるにあたり、いろんな事業所で就業体験をしましたが、こちらの第二いぶきさんで2018年4月から通所させていただいております。仕事もなんとかやれていると聞いております。リハビリや通院をしながら通えることには感謝しております。訪問リハビリでも充実した毎日が送れており、今でも微力ながら成長していることに親ながら喜んでおります。今後どうぞよろしく願いいたします。(山口 駿 父)



中1本巣特別支援学校にて、おやつ作り

心のバリアフリーナビゲーター 恩田聖敬が



愛を語る!



vol.6 平和愛

私は4月4日に東京五輪の岐阜県内の聖火ランナーとして岐阜県羽島市を駆け抜けました!あつという間の至福の時間でした。

私はFC岐阜の社長をやらせていただき、障害者の身として確信したことがあります。それは『スポーツこそが平和の象徴』だということです。私は戦争を知らない世代です。もし戦争下なら、私のような障害者は真っ先に切り捨てられてもおかしくないでしょう。それが今では、障害者にもパラリンピックという舞台が用意され、純粋にスポーツで競い合うことができます。そしてアスリートでない障害者の私も、聖火ランナー及び観客として参加できます。FC岐阜の試合にも多くの障害者が観戦に訪れています。

物欲のない私ですが、東京五輪観戦のために28型テレビを最新の49型に新調しました。しかも自ら家電量販店に乗り込み、自分で店員さんと値交渉して購入したものです。平和な世の中でなければあり得ない光景だと思います。前回の東京五輪は戦後復興を示す五輪だった



ヘルパーさんを介して1万円以上値引きしてもらえました

なら、今回は純粋にスポーツを楽しめる『平和』というありがたい環境をかみ締める五輪であるべきだと思います。また、コロナウイルスが全世界でまんえんする中、五輪をいかに安全に開催するか、対策を講ずるべきと思っています。コロナウイルスは人類に『ありふれた日常はいつも簡単に崩れ去る』ことを教えてくれました。またALSは私に『ありふれた日常は決して当たり前には与えられるものではなく、かけがえの



雨の中、沿道からたくさん笑顔のいただきました(^^)

ない幸せとしてかみ締めるべきものであることを教えてくれました。動けること、しゃべれること、家族とともに生きられること、それらは当たり前のことではないのです。1年越しに再び走る機会が設けられました。待ちに待った夢の舞台でした。ALSでも夢は見られます!『平和』と『ありふれた日常』への感謝の思いを込めて、私は満面の笑顔で聖火を手を走りました。皆様にその思いが伝わったなら幸いです。



取材を受けました!アスリートっぽいでしょう(笑)

仲間のすかた

木谷 未央さん

きたにみお

グループホーム パストラルでの生活

パストラル 谷河 美穂

木谷未央さんは、パストラル開所当初からの仲間
で、なでしこホームで暮らし始めて10年たとうと
しています。10年もたつと、生活のリズムができ
ていて、毎日同じペースで穏やかに生活を送れて
います。仕事から帰ってくると、ただいまより先に
「今日のご飯なんだっけ」や「お風呂谷河さんで行
くね」と言う木谷さん、時には「谷河さん、ねえ気
が付いた？」とその日に着ていた服を誉めてほし
くてアピールすることもあります。顔をみると何よ



大好きなオムライスにご機嫌♪

りも先におしゃべりが始まる、とってもおしゃべり
の好きな方です。
木谷さんの話は、お昼ごはんのメニュー当てや日
中での活動内容のクイズが定番です。自分が出し
たり、職員にクイズを出してもらったり、「谷河さ
ん、答えられるかなー？」と、これがクイズの合図で
す。木谷さんがヒントを出しながら職員に答えて
もらうのを楽しみます。しかし、クイズの答えを



お楽しみの誕生日パーティー☆

待っていても返ってこない時もあります。クイズを
出すところまでは良かったのですが、肝心の昼食
の内容を忘れてしまう、ちょっとお茶目な一面も見
せてくれます。

職員にクイズを出してもらう時は「今日のお昼ご
飯何食べた？未央さんクイズです！って言って」
と、これが常とう句です。その他にもおしゃべりの
レパートリーはたくさんあります。おしゃべりは、
職員や他の仲間と繋がっていきけるコミュニケー
ション術で、木谷さんの素晴らしい力だと思いま
す。“今日はどんな言葉が出てくるのだろう”と私
も楽しみに日々生活しています。

このようにおしゃべりをとっても楽しんでいる木谷
さんは、食べることも大好きです。帰ってきた時か
ら夕食を楽しみにしていて、入浴や明日の準備な



お好み焼きひっくり返しに挑戦！



藤田さんと仲良く散歩

どを終えると、「まだ夕食の準備しないの？」と催
促します。夕食を食べながらも、「明日の朝ごはん
なんやろー？」とすでに関心は朝食のメニューに
変わり、食べることはホームでの楽しみのひとつの
ようです。

休日のパストラルでは、お昼ご飯を買って出勤して
くる職員に「〇〇さん来たー」と同じテンション
で、「ごはん来たー」と大きな声で出迎えてくれま
す。もちろんその後には挨拶もしっかりしてくれま
す。普段はなかなかお手伝いに気の向かない木谷
さんですが、昼食の準備やクッキング活動になると、
興味津々で「私やろうか」と声をかけてくれます。
先日のマグカップケーキ作りの時には、粉を混
ぜている段階から「おいしそー」と言いながらペ
ロっと味見、出来上がるまで待てませんでした。
ホットプレートを使ったご飯作りでは、プレートに
触れてしまわないかと冷や冷やしますが、ちゃん
と具材だけを混ぜてくれています。作っている最
中は、出来上がるまで少しの我慢と格闘しなが
ら、「いいにおーい。まだかなあ。」と待つ時間も楽
しみにしてしてくれます。おしゃべり好きの木谷さ
んも、食べているときはとても静か、幸せをかみし
めているようです。食べ終わると、「美味しかった
ね。また食べたいね」とうれしい感想も伝えてくれ
ます。

木谷さんが、週末自宅に帰った時のお母さんとの
出来事や、日中の職員に、ホームでの食事や生活
の様子を報告してくれたときは、“印象に残ってい
たんだな、楽しめていたんだな”と確信が持てま

す。このように、どうしたら木谷さんが楽しい日々
を過ごせるか考えながら生活を送っています。
みんなで過ごしたあとは、夜になるとリラックスタ
イムです。日課にしている夕食後の腹筋を終える
と、自分の部屋でテレビを見てのんびり過ごして
います。一日の最後に「今日の健康」を見てから寝
るのがお決まりのようです。自分の時間を過ごし
ている時も、部屋の外から楽しい雰囲気伝わっ
てくると、部屋から出てきておしゃべりに加わっ
たりすることもあります。肩もみをしたり、してもら
ったり、ハンドクリームを一緒に塗ったり、生活
のいろいろな場面でコミュニケーションをとりな
がら楽しむのがとても得意です。



なでしこのみんなで囲らん

日々集団生活をしていると、他の仲間とのいざこ
ざや、自分の思い通りに進まない時も当然あつた
りします。そんな時は、共同生活だから、みんなが
心地よく生活できるためにはどうしたらよいか
一緒に考えます。

しかし、みんなの中の木谷さんというだけでなく、
自分が主人公だと思えるような、彼女の思いや木
谷さんらしさを大切にしています。誰かと一緒に
いたいときは話し相手になり、ひとりで過ごした
いは見守りと、ちょうど良い関係を大切にしま
しながら木谷さんが安心して楽しく生活できるように
していきたいと思っています。

活動報告

2月18日(木)

福祉の仕事 就職ミニフェア

サテライト 山下 悠

「福祉の仕事 就職ミニフェア IN日本福祉大学 オンライン」が2月18日に行われました。コロナ禍で事業所見学や実習など、現場を知る機会が少なくなっている学生に向けて、「Zoom」を使用したオンラインでの開催となりました。事業所紹介や全体でのシンポジウム、事業所ごとにブースを作って個別の説明質問会を実施し、12名の学生が参加してくれました。

参加した大学生は2年生が55.6%と半分ほど占めており、3年生33.3%、1年生11.1%でした。



山口さんが一緒にいてくださって心強い。

全体でのシンポジウムでは、主に就職活動に関する質問がありました。

Q 就職活動はどのようにしていましたか？

A 私は求人情報サイトから自分が行きたいところをリストアップして、そこに電話し見学をお願いをしました。私は現場の雰囲気重視だったので、見学し現場の方からお話を聞かなかで「ここで働きたい!」と思ったところがいぶき福祉会でした。

Q 見学時と働いてからで職場の印象は変わりましたか？

A 変わらなかったです。見学時から仲間も職員の方もとても笑顔で受け入れてくれました。働き始めてからもその印象は変わりません。

Q コロナ禍で逆に良かったことはありますか？

A 自然栽培パーティの企画「ハレバレごはん」に参加しました。自然栽培パーティの野菜でつくったお弁当を、コロナ禍で大変な思いをしている、ひとり親家庭や子ども食堂に配達し、多くの方とつながるきっかけになりました。

個別の説明質問会でも、学生から積極的に質問が寄せられました。

Q 働く上でどんなことを大切にしていますか？

A 「待つ」ことを大切にしています。これは就職活動でいぶき福祉会を見学したときに、現場の方から教えていただいたことです。仲間が考えていることや、やろうとしていることを察して、つつい先に応えてしまうことがあります。でも仲間が自分で考える、行動することを奪ってはいけないと思いました。

Q どのなところにやりがいを感じますか？

A 仲間の人生に関わり、一緒に楽しんだり悩んだりできることです。一緒に過ごしていると、私が思ってもみないことをして笑わせられたり、逆にどうしたらいいのだろうと悩むこともあります。でもその時間が私にとって充実しているな、と思えるときです。

今回就職ミニフェアに参加させていただいて、私自身が自分のことを振り返るきっかけになりました。良い機会をいただけて本当にありがたいです。質問に答えるのは緊張しましたが、関心を持って聞いてくれることが嬉しかったです。

また、私が学生の頃は自分の学びたいことを自由に学びに行き、その学びを提供してくれる環境がたくさんありました。しかし、今の学生たちはコロナ禍の影響で自由に学べない、学ぶ機会が少なくなって苦しい思いをしています。今回の就職ミニフェアが少しでも学生の力になれるといいな、と思います。

活動報告

3月12日(金)

きょうされん東海ブロック交流会

ゆめひろ共同作業所 辻本 隆太

きょうされんオンライン交流会にゆめひろ共同作業所のフルーツ・ムスカリの仲間たちと参加しました。毎年参加している交流会ですが、コロナ禍のためリモートでの開催となりました。

午後から行われた仲間交流会は20ほどの事業所がつながり、音楽とクイズを楽しみました。

プロジェクターで映し出される画面の数の多さに圧倒されながらも、こんなにもたくさんの施設が気軽につながれるのもオンラインならではのなあと感じました。音楽療法士の方の演奏にノリノリで参加したあと、司会の方からクイズを出してほ

しいというむちゃぶりがあり、みんなでしばらく考えました。「Q岐阜の名物は何に?」「A鶉飼」という問題を考えましたが、答えが出てこなくて残念ながら盛り上がりませんでした。みんなの常識は他県の人には難しかったようです。そんなうまくいかない経験もみんなと笑いあいました。リモートなので参加のハードルが低くいろんな仲間が気軽に参加できてよかったです。すこし困っても顔を上げればいつもの場所なので、とても安心して参加ができました。これからもリモートも利用しながら色々な方との交流をしていきたいと思います。



活動報告

3月17日(水)

いぶきコミュニティガーデンプロジェクト

春のワークショップ

オンラインとリアルで開催

いぶき法人本部 山本 友美

今回はオンライン講座と春の植え替えを開催。コーディネーターの木村さん、千葉さんをお招きし、コープのエリア委員さん、仲間も含め19名で活動しました。

木村さんの講座では、『人との良好な関わりが幸福感をもたらすこと』『花は自然に心をほぐし、いやす存在』、人や施設の人に花や緑があることによって壁が薄まり人と人を朗らかに繋げる、コミュニティガーデンの役割を再確認させていただきました。木村さんのお話は深く、目に見えないつながり合いを上手に育む力をもらえるようです。

次にお庭に出て千葉さんと一緒に植え替え作業。伸びすぎた茎をカットしたり花殻を摘み、次に秋頃の景色やいつ頃まで咲く花なのかを教えてもらいながら、植える場所を決めていきました。

いぶきの仲間も随分と慣れてきて、上手に植える

ことができました。作業する人、縁側で眺める人、おしゃべりで参加する人など。

印象的だったのは、この花は何でしょうのクイズの時に、この日初参加の都築さんが、一生懸命に昔の記憶をたどりながら、デイジーや忘れな草などの花の名前を嬉しそうに思い出してくれたこと。今回は、講座での学びと、お庭作業の両方を仲間と一緒に過ごすことができました。いぶき日光町のお庭に春を感じに、ぜひ遊びにきてください。



みんなで楽しく植え替え作業

活動告知 4月22日(木)～

障害福祉から『ありがとねバスケット』を届けたい!

～楽しい、おいしいで対話する社会へ～

クラウドファンディングで「ありがとね」の輪を広げるつながりづくりがはじまります!
あなたも福祉の取組みを応援して、楽しくつながり、対話をひろげませんか?



「ありがとねバスケット」とは

仲間たちが作った商品の詰合せ「ありがとねバスケット」をお届けすることで障害のある人、支援いただいた方、お届けする人に幾重にもありがとうの循環が生まれることを目指します。

ご支援いただいたと...

6月～2月の間、隔月5回(か所)に「ありがとねバスケット」をお届けします。楽しい、おいしいがぎゅっつまった商品をお届けする先は、自分でも、大切な人でも、気になる人でもどなたでもご指定ください。「ありがと」の気持ちがかんたん広がり、たくさんの対話が生まれ、誰もが安心して暮らせる寛容な社会が実現することが私たちの願いです!

募集期間 4月22日(木)～6月15日(火)…55日間

返礼品例
・10,000円の支援：2000円分バスケット×5回(人)
・30,000円の支援：6000円分バスケット×5回(人)

申込・お問合せ いぶき福祉会ホームページ・お電話：058-233-7445(担当：森)

※バスケットの送り先を変更できます。 ※商品代金には送料が含まれています。
※詳しくは、いぶき福祉会ホームページのお知らせ内『イベント』ページにて。



HPイベントページ

活動告知 長良川河川敷をみんなで歩いて社会にイイこと!
5月23日(日) 第1回ぎふハッピーウォーク

私たちはみなさまとのつながりを感じられる場をやっぱり大切にしたい!
そこで、地元の魅力を再発見しながら、長良川公園～忠節橋までの遊歩道をのんびり歩くウォーキングイベントを計画しました。また、イベント参加費の一部を社会課題の解決のために寄付をするチャリティー企画です。
清流長良川や金華山を望みながら、みんなで一緒に楽しく歩きませんか?
詳しい内容は、いぶき福祉会のホームページをご覧ください。

いぶきふれあいまつり
中止について

28年ものあいだ、地域の春のイベントとして皆様に大切にいただきました「いぶきふれあいまつり」は、新型コロナの感染リスクを考慮し、今年度も開催を中止させていただきます。



日時 5月23日(日) 10:00～12:00(予定)

場所 長良川公園集合、忠節橋まで

内容 長良川公園～忠節橋までの河川敷を好きな距離一緒に歩きます。

参加費 一般1,000円 ※高校生以下、障害のある人と支援者1名無料

申込・お問合せ いぶき福祉会ホームページ・お電話：058-233-7445(担当：森)

※詳しくは、いぶき福祉会ホームページのお知らせ内『イベント』ページにて。



HPイベントページ

2021年度 新入職員紹介

今年度は、新たな職員が3名仲間入りしました。

①趣味 ②夢 ③自己PR

4月1日(木)北東部コミュニティーセンターにて、辞令交付式を行いました。

北部事業部は会場、西部事業部はリモートにて、全職員の前で理事長より辞令交付といぶきの歴史について講話を聴きました。フレッシュなメンバーを加えて新たな2021年度をスタート。どうぞよろしくお願いたします。



前列左から横山理事長、北川専務理事



会場とオンラインに分かれて開催



理事長より、一人ひとり辞令が手渡されました



佐藤 貴則

さとう たかのり

西部事業部

- ①ゲーム、アニメ、バイクでツーリング
- ②コロナが終息してから、いつか北海道ツーリングへ行きたい
- ③(非常勤から)今度は正規職員としてお世話になります。右も左もわかりませんが、早く仕事を覚えられるよう頑張ります。よろしくお願いたします。



堀之内 胡桃

ほりのうちくるみ

北部事業部

- ①ハンドメイド(アクセサリ、ハーバリウムボールペンなど)
- ②多くの笑顔に出会うことや、笑顔になるきっかけを作れる人になること。
- ③仲間が笑顔で楽しく、自分らしく過ごすことができるよう、小さな変化にも気づけるようにしたいと考えております。未熟者ですが、精一杯頑張ります。



高崎 聖佳

たかざき せいか

北部事業部

- ①絵を描くこと、音楽を聴くこと
- ②幸せな日々を過ごすこと
- ③相手のことを考え、楽しく話ができることです。絵や音楽も好きなので、そのことを通じて関わりができればいいなと思っています。これから頑張っていきますので、よろしくお願いたします。